

令和元年度第2回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和元年5月7日（火）15:30～15:55 評議会室

出席者：廣川理事長、青木副理事長、倉茂理事、山根理事、高橋理事
林理事、木村理事、山本監事

欠席者：元永監事

事務局：久保田事務局次長、山田総務課長、辻財務課長、小椋経営企画課長、
澤村学生・就職支援課長、郡田教務課長、土淵地域連携・研究支援課長
杉田課長補佐、吉田主幹

- ・議事に先立ち、理事長より林理事へ辞令交付が行われた。
- ・役員会開会后、林理事より自己紹介があった。

平成31年度第1回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）について、原案のとおり承認された。

議題

（報告事項）

1 THE 世界大学ランキング日本版 2019 における本学の結果について

小椋経営企画課長より、資料に基づき報告があった。

〔主な意見・質疑等〕

- ・今後、評価の根拠になる学生へのアンケート等を意識しながら、大学としてできることを検討していくのか。
→ランキングの順位を上げるためというのではなく、大学の取り組みとして足りない部分がないか、努力していることが反映されているかなどを認識しながら検討するものと考えている。
- ・昨年度に比べて、教育リソースと教育成果のスコアが下がったことについて、検討が必要ではないか。
→どこまで情報が開示されるかはわからないが、昨年度からの評価方法の変更点について事業者とも意見交換をし、分析したいと考えている。

2 平成31年度科学研究費助成事業の応募申請・採択の結果について

土淵地域連携・研究支援課長より資料に基づき報告があった。

〔主な意見・質疑等〕

- ・科研費の取り方にノウハウがあるようにも聞くが、コンサルティングなど受けているのか。
→毎年学内で講習会を開催している。また2年に1回程度は日本学術振興会にも来てもらい話を伺っている。一昨年から審査の制度が大きく変わったこともありアドバイスはしているところ。
- ・新学術領域に新しい提案がないのはさびしい。研究レベルを上げるのも大事なことで、例えば学会活動も奨励して、学会でのプレゼンスを高めるのも有効な方法ではないか。テクニックだけではなく、実質的なところも高める必要がある。